



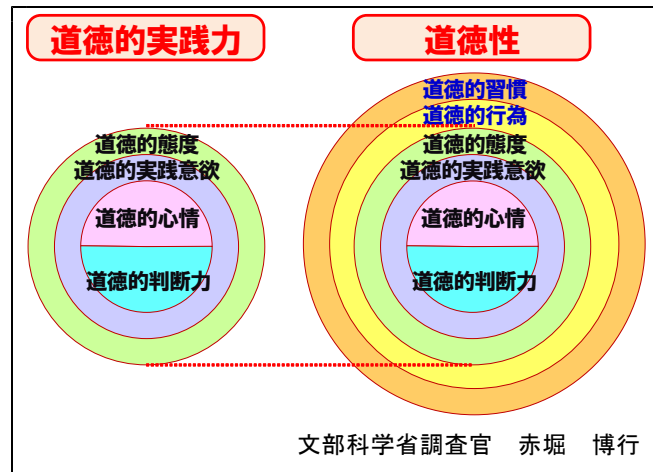
講義「豊かな心を育むために」

1 道徳の時間の目標

- <小学校>
- ・道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、**道徳的実践力**を育成する。
- <中学校>
- ・道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、**道徳的実践力**を育成する。
- <茨城県立高等学校>
- ・生徒一人一人が道徳的価値や人間としての在り方生き方に関する自覚を深め、豊かな心を育て、未来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする**道徳的実践力**を高める。
 - ※茨城県の県立高等学校は、第1学年の生徒を対象に「道徳」の授業を行っている。

道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力である。

将来出会うであろう様々な場面、状況において適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質（心）を意味する。



2 道徳の時間において目指すこと

○道徳的価値の自覚を深めるとは

- ・道徳的価値を理解すること。（価値理解・人間理解・他者理解）
 - ・自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること。
 - ・道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと。
- 1時間の授業の中で期待する児童生徒の姿

道徳的価値を理解する

- ① **価値理解**：道徳的価値の大切さを、より実感をもって理解させる。
 - ② **人間理解**：道徳的価値は大切であるが、なかなか実現することができない難しさや人間の弱さを理解させる。
 - ③ **他者理解**：道徳的価値に関しては多様な感じ方、考え方があつて理解させる。
- ※ 一時間の授業でこれら全てを行うということでも、いずれかを行えばよいということでもない。ただし、授業を進める中で児童生徒の多様な感じ方、考え方が発表され、話し合われるので、価値理解や人間理解を図る過程で他者理解を併せて行うことになる。

自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる

授業の中で読み物資料の中の事象としてとらえるのではなく、これまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら考えられるようにする。児童生徒は道徳的価値の理解と同時に自己理解を深めることにもなる。

道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う

児童生徒が課題を明らかにするために、ねらいとする道徳的価値にかかわる具体的な経験やその時の感じ方、考え方を児童が振り返れるようにする。

3 学習指導過程と発問について

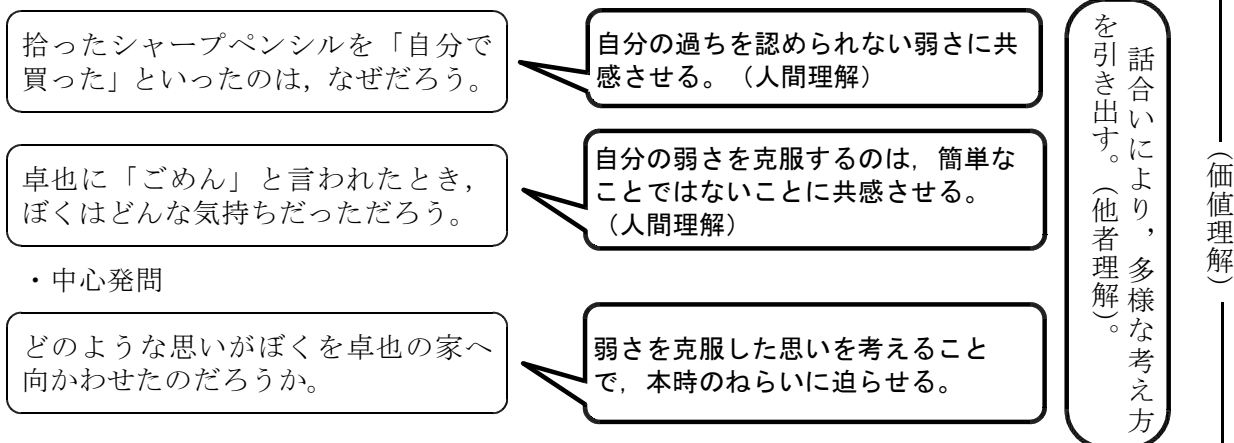
(1) 道徳の授業の学習指導過程(例)

導入	<p>ねらいとする道徳的価値への方向付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を想起する。 ・問題場면을把握する。 ・主題に対する興味・関心を高める。 等
展開	<p>資料を基にした、ねらいとする道徳的価値の追求（前段）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の行為とその動機，心情に迫る。 ・多様な価値観（感じ方・考え方）を引き出す。 ・自分なりの道徳的価値を深める。 <hr/> <p>自分自身の問題として考える（後段：資料場面から，現実の自分に目を向ける。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分を振り返る。 ・人間としての在り方を吟味し，生き方を自覚する。
終末	<p>ねらいとする道徳的価値の整理・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説話 ・心の中でそっと決意する。（余韻を残す） 等

- (例) 主題名 良心のめざめ 3-(3) 弱さの克服
 資料名 「銀色のシャープペンシル」 出典：文部省「道徳教育推進資料3」
 ねらい 自分の弱さや醜さを克服し、人間としての強さをもって生きようとする心情を育てる。

清掃中に拾ったシャープペンシルを自分の物にしてしまったのが、数日後に「卓也のシャープペンシルをとったのか。」と指摘された。ぼくは、その場では自分で買った物だと言い張ったが、こっそりと卓也のロッカーに突っ込んだ。
 その日の夜、卓也から自分の勘違いであったという謝罪の電話を受けた。ぼくは、このままでいいのかと悩むが、突然、かつて保身からの自分の行為に対して「ずるいぞ。」と指摘された記憶がよみがえり、卓也の家に向かって歩き出した。

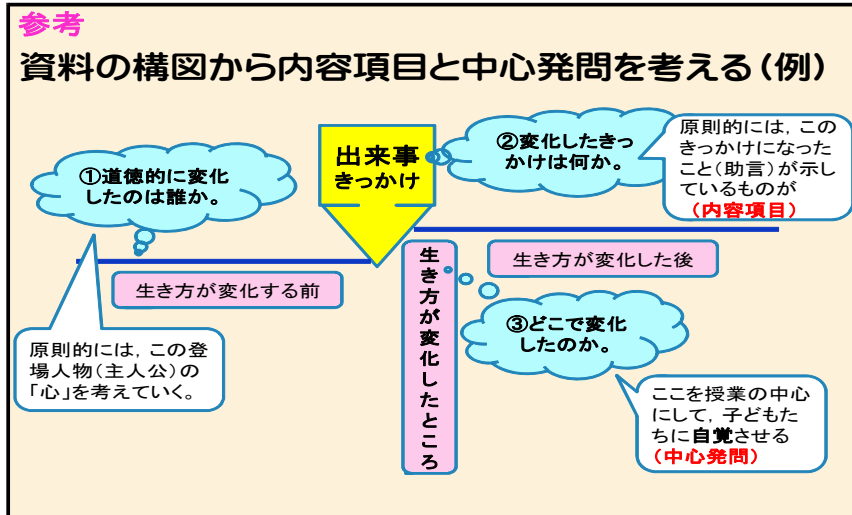
- 導入 「自分の非を認めず、ごまかしたり、正当化してしまったりしたことがありますか。」
- 展開（前段）
 - ・基本発問



※基本発問を経ることで、児童生徒が理想論ではなく、本音で語り合えるようになる効果もある。

- 展開（後段） 「私たちの道徳」に、葛藤に打ちかてた経験を振り返って記述する。
- 終末 教師の経験を話す。

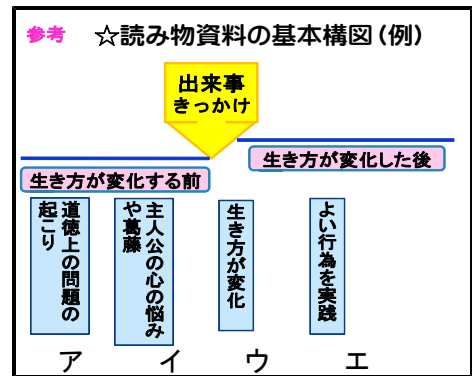
(2) 展開（前段）における発問づくりについて



参考 「道徳の時間の指導を考える」 横山 利弘 「千葉教育」平成23年7・8月号

○読み物資料の基本構図（例）

- ア 道徳上の問題の起こり
- イ 主人公の心の悩みや葛藤（何かがきっかけになって）
- ウ 生き方が変化
- エ よい行為を実践



○基本構図に合わせた発問例

- ・アの場面での発問：生き方が変化する前の（よい行為ができない）主人公の心を考えさせる。

よい行為ができないとき
 ・〇〇は、なぜそんなことをしてしまっただのか。
 ・その時〇〇はどんな気持ちだったか。

← 基本発問

- ・イの場面での発問：悩み、葛藤する主人公の「心」の揺れに共感させる。

悩んでいるとき、心が揺れているとき
 ・〇〇はどんな気持ちでいるか。
 ・どうして心が揺れて（悩んで）いるのか。

← 基本発問

- ・ウの場面での発問：主人公はどのように考えて変わったのかを考えさせる。

生き方が変化したとき
 ・どのように考えて～したのか。
 ・どのような思いが〇〇を～させたのか。

← 中心発問

- ・エの場面：よい行為を実践して主人公のすがすがしい「心」に気付かせる。

よい行為を実践したとき
 ・〇〇はどんな気持ちだったか。
 ・〇〇はどのような思いでいるか。

← 基本発問（ない場合もある）

道徳は、「資料を学ぶのではなく、資料から学ぶ」ので、内容を捉えさせることを目的とした発問ではない。